

矯正施設におけるプログラムの充実化と効果検証

半^{はん}藤^{どう}真由実^{まゆみ}
矯正研修所効果検証センター効果検証官

一 はじめに

効果検証センターはおかげさまで新設から五年がたちました。と言いましても、効果検証センターとしてはまだ歴史が浅いためか、中にはなじみのない方や、名前を聞いたこともない方もいらっしゃるかもしれません。

実際に今まで、「効果検証センターってどこの民間団体ですか。」（民間ではなく、法務省の矯正職員による組織です）、「効果検証センターってどこにありますか。」（矯

正研修所内の一階にあります）、「確か、心理技官が働いているところですよね。」（統括効果検証官以下、法務技官（心理）と法務教官とが約半々で勤務しております。ちなみに、当職は法務教官です）、「統計で難しいような効果検証をすることでですよね。」（確かに、再犯防止の観点から矯正行政に係る効果検証も実施しておりますが、それだけではなく、MJCAやGツール、施設で日々使用している処遇プログラムの開発及び維持管理も実施しております）など、出張等のたびに数々の御質問をいただく機会があり、これから更に効果検証センターとしてのプレゼンスを高めていく

必要性を感じるとともに、当センターに関心を寄せていただいていることを有り難く思っていたところです。

そのような中で、今回新設五年目という節目において、令和六年三月一九日に「効果検証センターシンポジウム」を実施し、その概要について「刑政」誌に執筆する機会をいただきました。当職は昨年度プログラム班担当として勤務しておりましたため、効果検証センターが処遇プログラムの開発・改訂・効果検証等を担っているという点についても、是非皆様を知っていただきたく、今回プログラムに焦点を当てて御紹介できればと考えております。また、当日御参加がかなわなかった矯正職員をはじめとする読者の皆様にも本誌を通じて概要を共有できれば幸いです。

二 薬物依存離脱指導の充実化と効果検証

(一) 効果検証の背景

シンポジウムでは、プログラムの充実化の一例として、既に公表している薬物依存離脱指導（R1）（以下「R1」

という）の充実化と効果検証⁽¹⁾について取り上げました。

R1は、平成一八年から開始されましたが、対象者が多く、再入率も高い上に、総じて刑期が短いため、指導時間の確保が困難であるなどの問題が生じていました。こうした問題点を踏まえ、平成二八年度にR1を改訂し、新たな実施体制を開始しました。改訂の特徴としては、大きく二つあります。一つ目は、指導目標の見直しです。薬物依存症は病気であるとの認識や、民間自助団体の活動の広がりなどの社会状況の変化等を受けて社会内の処遇や治療等との継続性を踏まえた指導目標に改訂されました。二つ目は、プログラムの複線化です。具体的には、標準プログラムが、必修プログラム、専門プログラム、選択プログラムの三種類に複線化され、これら三種類のプログラムを組み合わせて実施できるようになりました。

(二) 効果検証の枠組み

改訂後の新たな実施体制が十分に機能しているかどうかを検証するため、標準プログラムの再犯防止効果に関する検証を実施することとなりました。効果検証の枠組

みとしては、二つの調査を実施しました。一つは、専門

プログラムの受講と心理尺度得点の変化に関する調査です。これは、専門プログラムの受講者（受講群）と未

受講者（いわゆる「比較対照群」）であり、これから専門プログラムを受講予定の「待機群」で、薬物使用の問題を変えたいという変化への動機付けを図るもの、薬物に対する欲求に対処できる自信を測るもの、⁽³⁾薬物の再使用防止スキルを測るもの、⁽⁴⁾継続的に治療・援助を求める態度を測るものの四つの区分から成る八つの心理尺度⁽⁵⁾を使用し、その得点の変化を比較しました。また、受講群と待機群を無作為に割り付けることで、受講以外の要因の影響を除去し、エビデンスレベルの高い研究方法として知られる無作為比較対照試験（RCT）という手法を用いて実施しました。二つ目は、R1対象者の再犯追跡調査です。これは、出所二週間前をめどに自記式質問紙調査を実施し、出所後二年間の矯正施設への再犯状況に関する追跡調査を実施しました。

なお、ここで言う再犯とは、刑事施設出所日から二年以内にじゃつ起された薬物事件により、実刑判決を受けて再び受刑する結果となったもののうち、最も日付が早

い事件を指します。

（三）調査結果

調査結果は次のとおりです。まず、専門プログラムの受講と心理尺度得点の変化に関する調査について、前記八つのうち六つの尺度（動機付けの変化、欲求対処スキルの変化、援助に係る態度の変化等）において受講効果があることが示されました。次に、R1対象者の再犯追跡調査については、受講者と未受講者の再犯率に差は認められず、受講プログラムの組合せ別（必修、必修・選択、必修・専門、必修・選択・専門、その他）の再犯率に一部差があったことから、プログラムの選定方法や内容等に課題がある可能性が示されました。

（四）今後の課題と対応

効果検証の結果、プログラムの一部に一定程度の効果があることが確認されました。一方で、プログラムの選定方法や内容について、一部課題が示されたため、新たなアセスメント体制を導入し、対象者の重症度も加味したプログラム選定とすることや、移行プログラムを開発

し、出所後を見据え、スキルの定着や円滑な社会復帰を図る予定としています。それに併せて、これまでは、GツールのR1受講優先度と処遇調査に基づき、R1受講対象者を決めていましたが、それに加えてDAST120⁶という薬物乱用に関連する問題の重症度を簡便かつ実用的に評価すること目的としたものも併用して、高密度、中密度、低密度に対象者を分類し、プログラムを多層的に行う取組を実施するなど新たな取組が始まっています。

(五) シンポジウムにおける意見交換

以上の内容を踏まえ、シンポジウムでは、甲南女子大学森丈弓教授、お茶の水女子大学高橋哲准教授を指定討論者としてお招きし、意見交換等を行いました。主な御意見としては、プログラムの実施者となる施設職員の負担を最小限にできるように、比較対照群について、プログラム実施時期に影響のない形で効果検証のデザイン（「受講群」と「待機群」の比較）が設計されており、精度の高い効果検証が実施されているといった御意見をいただきました。また、今後は効果検証の知見や結果等につ

いての対外的発信も視野に入れると良いといった御意見や、矯正局指定の効果検証業務計画終了年度をもって効果検証を終わらせてしまうのではなく、中長期的にデータを蓄積し効果検証を継続できると良いといった御意見などもいただきました。当センターとしては、いただいた御意見を前向きに受け止め、今後の課題としていく所存です。

三 その他効果検証

成人矯正課業務としては、性犯罪再犯防止指導の効果検証についても実施しました。令和二年三月に公表された内容ですので、紹介にとどめさせていただきます。

少年矯正課業務としては、特定生活指導（性非行防止指導）の効果検証、大麻使用歴を有する在院者に対する指導教材等の作成、女子少年院在院者の特性に配慮した処遇の効果検証なども実施しています。

一例として、大麻使用歴を有する在院者に対する指導教材等の作成について少し紹介しますと、社会内の薬物治療プログラムとの連続性の確保や大麻使用歴を有する

在院者の増加への対応を目的として、特定生活指導（薬物非行防止指導）教材「J. M A R P P」改訂と、補助教材として「大麻に関する指導教材」を作成しました。文章を読みやすくし、視覚的にも工夫したほか、現場の少年施設の御意見も踏まえつつ、コラムも増やすなどして充実化を図りました。

四 最後に

効果検証センターとして、効果検証班時代からの知見・手法を蓄積してきており、プログラムについては作成・改訂・維持管理、効果検証等を担ってきたところです。効果検証に当たっては、日々の業務に加え、多くの調査で御負担をお掛けしていることと承知しており、改めて矯正職員の皆様方には御協力に感謝申し上げます。

効果検証業務については、当センターにおいて教材作成から効果検証に至るまで、先行研究や、過去の効果検証結果の蓄積等に加え、外部アドバイザーからの専門的御指導を賜りながら議論を重ねつつ実施しているところ、これらは効果検証のための重要な要素の一つではあ

りますが、これだけでは効果検証の実施には至りません。矯正局からの最新の施策を踏まえたニーズに加え、矯正施設の職員や関係の皆様にとつて教材や効果検証が無理なく実施しやすいものであるか、受講者の反応を踏まえた改善策はあるか、指導者にとつて有益な情報が指導者マニュアルに盛り込まれているかといった視点が不可欠です。まさに矯正施設、矯正局、そして効果検証センターが一丸となって共に矯正行政における効果検証を担っているものと認識しております。引き続き、より良い効果検証のために一緒に取り組んでいければ幸いです。

今後とも効果検証への御協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

(1) 詳しい内容については、鈴木理絵・大江由香「刑事施設における薬物依存離脱指導の現状と今後の展望―効果検証に基づくプログラムの充実化に向けて―」(二〇二二) 刑政一三三巻一〇号、三四―四六を参照されたい。

(2) 変化への動機付けを測る尺度として、SOCRATES4D（小林他、二〇一〇）を使用した。これは、「病識」（薬物への問題意識）、「迷い」（改善に係る葛藤）、「実行」（問題改善の行動化）を測定する尺度である。SOCRATES4Dについては、詳しくは、小林桜児・

松本俊彦・千葉泰彦・今村扶美・森田展彰・和田清(二〇一〇)・少年鑑別所入所者を対象とした日本語版 SOCRATES (Stage of Change Readiness and Treatment Eagerness Scale) の因子構造と妥当性の検討 日本アルコール・薬物医学会雑誌、四五(五)、四三七―四五一。

(3) 薬物依存に対する自己効力感尺度(森田他、二〇〇七)を使用した。これは、「全般的自己効力感」(全般的な場面で薬物に対する欲求に対処できる自信、「個別場面自己効力感」(具体的な場面で薬物に対する欲求に対処する自信)を測定する尺度である。詳しくは、森田展彰・末次幸子・嶋根卓也・岡坂昌子・清重知子・飯塚聡・岩井喜代仁(二〇〇七)。日本の薬物依存症者に対するマニユアル化した認知行動療法プログラムの開発とその有効性の検討 日本アルコール・薬物医学会雑誌、四二(五)、四八七―五〇六。

(4) 効果検証センターにおいて独自に開発したスキル尺度である。これは、「スキル尺度(予防)」「薬物を再使用しないために日常生活の中で実行する予防スキル」、「スキル尺度(対処)」「薬物を使用しなくなった時に実行する対処スキル」を測定する尺度である。

(5) 効果検証センターにおいて独自に開発した援助希求尺度である。これは、薬物を使用しないために、医療機関や自助グループ等に援助を求めするための知識と意欲、自信を測定する尺度である。

(6) Drug Abuse Screening Test のこと。臨床での重症度評価及び治療・評価研究のためにデザインされた二〇項目の自記式評価尺度である。詳しくは、嶋根ら(二〇一五)・DAST-30 日本語版の信頼性・妥当性の検討 日本アルコール・薬物医学会雑誌、五〇(六)、三二一―三二四。

法務省矯正研修所 編

行動科学系 研修教材

初学者から専門家まで幅広くご利用いただけます！

増補改訂版

矯正心理学

定価1,155円
(本体1,050円+税10%)
A4判・195ページ

全訂版

矯正教育学

定価990円
(本体900円+税10%)
A4判・137ページ

全訂版

矯正社会学

定価990円
(本体900円+税10%)
A4判・172ページ

矯正協会 〒165-0026 東京都中野区新井 3-37-2
 TEL (03) 3319-0652 FAX (03) 3387-4454
http://www.kyousei-k.gr.jp/posts/product_archive.html email:syuppan@kyousei-kyoukai.jp